

- 取組分野の重点化を図ることは良いと思うが、それを支えるインフラ部分が事業進捗していかないと、企業立地や産業の成長に繋がらない。
- 新しいインフラが成り立つために、老朽化の進んでいる既存インフラを戦略的に維持していくというスタンスを盛り込むことが必要ではないか。国においても持続可能な開発目標の達成にむけて、そのような視点を盛り込むよう指示されている。
- バージョンアップの目的は、成長戦略策定以降の到達点の確認とその内容を共通認識として持つこと。
- 分析結果や有識者の意見からすれば、これまでの取組は間違っていなかったと言える。一方で、検証を通じて浮き彫りとなった課題もある。今までやってきたことを方向転換するのではなく、その延長線上で、今後どう注力していくか考える必要がある。
- これから40～50年先、人口が減少し、働く人が減ってくれば、一人当たりGDPが大事な指標になるのではないかと。その意味で、人口減少する中で、人材力を強化して付加価値を高めるというストーリーはわかり易い。
- 社会全体にAI、IoTがものすごい早さで浸透してくるので、これからの2～3年先の変化を捉える必要がある。
- 重点化分野のうち、第4次産業革命のリードや人材力強化については、大阪らしさ、関西らしさを少しくローズアップすることができれば、大阪府市でつくる成長戦略ということがよりわかりやすくなる。
- 4つの重点分野は、国の支援や民間の力を活用するといった点において、ある意味都市間競争のテーマでもあり、非常に大事なテーマ。ぜひとも予算面でも府市一体となって、スピード感を持って取り組んでいきたい。
- 成長戦略でめざす都市像のうち、中継都市部分は一定機能が高まっている一方で、ハイエンド都市部分は、まだまだこれからの土壌づくり、あるいは手立てが必要。
- 府内市町村、近隣府県、国ともしっかり連携していく必要がある。